

3 月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

○ 所長の高橋でございます。本日、私からは、3 点申し上げたいと思います。

○ まずは、「1 号機と 5 号機の点検・評価」についてです。

当発電所の 1 号機と 5 号機につきましては、先月までに系統機能試験の評価が全て完了するとともに、中越沖地震関連の不適合についても、これまでに全数の処理が完了し、プラントの運転に影響が無いことを確認しております。

また、1 号機につきましては、2 月 19 日にプラント起動前に評価すべき設備健全性に関する報告書とプラント全体の機能試験に関する評価計画書を、原子力安全・保安院に提出いたしました。

さらに、1 号機の安全上重要な機能を有する屋外重要土木構造物などの耐震 S クラスの施設等については、基準地震動による耐震評価を実施した結果、耐震安全性が確保されていることを確認しており、その評価結果を中間報告書として取りまとめ、3 月 4 日に同院へ提出いたしました。なお、1 号機の建物・構築物や機器・配管系の耐震安全性評価につきましては、現在、評価結果を取りまとめているところであり、とりまとめ次第、最終報告書として提出する予定です。

今後は、これらの報告書・計画書に関する国・県の審議結果や地元自治体のご意向などを踏まえながら、適切に対応してまいります。

○ 2 点目は、「知見の拡充に向けた取り組み」についてです。

当発電所では、今後も知見の収集と反映に積極的に取り組み、安全・安心の更なる向上を図ることとしており、現在、4 項目をテーマとした調査・検討を進めております。

4 項目のテーマのうち、「柏崎地域の地形および地質構造の形成過程に関する検討」と「長岡平野西縁断層帯の活動性に関する検討」の 2 項目については、専門性を重視し、幅広く知見を求める観点から、財団法人地震予知総合研究振興会に検討を依頼しております。

一方、「建屋の変動に関する検討」と「中越沖地震を踏まえた地震観測に関する検討」の2項目については、発電所内において従来から実施してきた観測体制をより充実させる取り組みであることから、当社が主体となって実施してまいります。

なお、これらの取り組みの具体的な検討状況につきましては、先月末から当社ホームページへの掲載を開始しており、一般の方々にも閲覧いただけるようになっております。

今後、各項目の検討状況や地震観測記録等のデータについて、ホームページを通して速やかに報告してまいります。また、新たに得られた知見につきましては、国・自治体へ報告するとともに、地域の皆さまに対して丁寧にご説明したいと考えております。

○ 3点目は、「地域説明会の開催」についてです。

今月の24日と25日の2日間、柏崎市と刈羽村において地域説明会を開催いたします。中越沖地震後11回目となる今回の説明会では、1号機～5号機の点検・復旧状況や安全と品質向上に向けた取り組みについてご説明するとともに、皆さまからのご意見をお聞かせいただく予定です。

なお、発電所の状況につきましては、今後も地域説明会で定期的にご説明するとともに、広報誌や新聞広告、ラジオ、テレビCM等のマスメディアを通じて、地域の皆さまへ、随時、情報発信を行ってまいります。

○ 最後になりますが、今月の17日から19日にかけて、柏崎市において原子力発電所の耐震安全性に関するIAEA国際ワークショップが開催される予定です。本ワークショップは、最新事例の国際的な情報共有を、加盟国の原子力発電所の耐震安全性向上に資することを目的としており、当社としても、積極的に協力したいと考えております。

以上

添付)

- ・柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・プレス公表（運転保守状況）

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成22年3月)

平成22年3月11日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況													補足説明
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14~H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定期検査による停止													
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定期検査による停止													
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定期検査による停止													
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定期検査による停止													
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4~H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定期検査による停止													
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第8回 H19.5.24~H22.1.19 定検停止期間:H19.5.24~H21.8.31 (831日) H21.12.26~H22.1.8 (14日) (原子炉起動H21.1.6)	↓第8回定期検査による停止 不具合調査のため計画停止													
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	運転中	第8回 H19.11.15~H21.12.28 定検停止期間:H19.11.15~H21.5.20 (553日) H21.9.25~H21.11.10 (47日) (原子炉起動H21.11.8)	↓第8回定期検査による停止 燃料取り替えのため計画停止													

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (2月末現在)

2月	34.1%
21年度累計	19.8%
運転開始後累計	66.1%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (2月末現在)

2月	188,279
21年度累計	1,304,928
運転開始後累計	81,496,764

④ ドラム缶発生量(本) (H21年度第3四半期)

当期発生本数	949
貯蔵庫累積貯蔵本数	27,443
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H21年度第3四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,664
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 構内従業員データ(人) (3月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	849	3,014	45%
	刈羽村	83	330	5%
	その他	96	1,397	17%
	小計	1,028	4,741	67%
県外		112	2,789	33%
合計		1,140	7,530	—
		8,670		100%
協力企業社数(社)		968		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

⑦ 来客情報(人) (2月末現在)

	2月	年度累計
地元	937	14,038
県内	689	13,117
県外	957	30,350
国外	37	463
合計	2,620	57,968

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
3月14日	ミュージックライブ アット カムフィー (カムフィー) ジャズライブ「小川美紀&小川富士雄と仲間たち」
3月18日	シェイプアップボディエクササイズ (柏崎エネルギーホール)
3月18・19日	第139回名画鑑賞会 (柏崎エネルギーホール)
3月22日	とうでん 今.話.会 (柏崎市民プラザ 海のホール) 「食育のすすめ ~大切なものを失った日本人~」
4月8日	次回定例所長会見予定
4月15・16・17日	シュガークラフト教室 〔柏崎会場〕4月15・16日(柏崎エネルギーホール) 〔刈羽会場〕4月17日(き・な・せ)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）
～中越沖地震関連を除く～

平成22年3月11日
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	1月25日	4号機	電力ケーブル洞道換気空調機室におけるけが人の発生について (区分Ⅲ)	<p>(事象の発生状況) 平成22年1月25日午前10時50分頃、4号機の電力ケーブル洞道換気空調機室（非管理区域）において、制御ケーブル修理工事を実施中の協力企業作業員が、現場に設置されている洞道入口扉上部スペース（幅：約1.7m×奥行き：約2.4m）で制御ケーブルの布設作業を行っていたところ、バランスを崩して高さ約2.5mから落下し、腰および臀部を強打したことから、救急車にて病院に搬送しました。</p> <p>(対応状況) 診察の結果、第4腰椎破裂骨折と診断されています。 原因を調査した結果、災害当時安全帯のフックを掛けていなかったこと。また、計画段階でのリスク抽出が不足しており、安全柵の設置等、安全帯以外の安全対策が行われていなかったことが判明しました。 今後、対策として以下のことを行います。 ・作業計画段階において、作業範囲全域を確認しリスク抽出を行う。 ・ヒヤリ・ハット事例集を活用し、作業員に対し墜落防止措置を徹底するよう教育する。 ・作業エリアを認識させ、墜落の可能性がある作業床の高さ・開口部の深さを明確にし、作業員全員が高所作業の認識を持つことを確実にする。 今回の事例を当社社員や協力企業に対して周知し作業安全に努めます。</p>